



あおり 町連だより

第188号

平成23年1月発行

青森市町会連合会

TEL 017(734)2584
FAX 017(734)2587

明けましておめでとうございます

明るく住みよい地域づくり推進

ふれあい・助けあい・支えあいの心で

明けましておめでとうございます。町会長、町会員の皆様には、清々しい希望に満ちた新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

常日頃より町会連合会の事業運営に温かいご理解とご協力をいただいておりますことに心よりお礼申し上げます。



加川幸男市町連会長

青森市町会連合会といたしましては、平成22年は青森市市民憲章を尊重するとともに、各町会の連絡協調を図りながら、「町会活動の活性化支援」に重点を置いて、安心安全な住みよい環境づくりと住民福祉の向上に努めて参りました。

おかげさまで、諸事業もおおむね順調に進んでいるところであり、町会連合会に対する皆様の温かいご指導ご協力の賜と厚くお礼申し上げます。

さて、最近はさらに少子高齢化、核家族化といっ

た社会構造の変化による地域課題が増加し、また地域住民間のつながりが希薄になっております。

このような現在の地域社会において市連合町会は、組織体制の改革により進めている部会制による活動を、各地区連合町会・単位町会及び各関係機関団体との連携によりさらに活発にし、機能を発揮していくべきものと考えております。

このことから平成23年は、市民の自主的な活動と行政との協働による「ふれあい・助けあい・支えあい」を掲げた地域の輪を広げる運動を通して、明るく住みよい地域づくりをめざした活動を推進して参りたいと考えております。

今後ともより一層、皆様のご指導と、ご協力をお願い申し上げます。

年頭に当たり、各町会のますますのご発展と町会長・町会員とご家族皆様にとってよき年となりますよう祈念して新年のごあいさつといたします。

5月27日に23年度定時総会

23年度の町会連合会定時総会は、5月27日（金）午後1時から市文化会館で開催します。

紙面紹介

- 2面 22年度市政懇談会
- 3面 除排雪事業実施計画説明会
- 4面 地域協議会町会長研修会
総務部会町会役員研修会
- 5面 第33回町内女性の集い
理事・部会員研修会
- 6面 頑張っています(ロイヤル鳴滝町会)
市表彰、松原町会創立70周年記念誌



青森の新たな玄関として開業した新青森駅

平成
22年度
市政懇談会

青い森鉄道の利便性向上を図る

新幹線開業テーマに意見交換

市町会連合会は10月19日（火）、市福祉増進センター（しあわせプラザ）で22年度市政懇談会を開き、新幹線開業と地域づくりを中心に、鹿内博市長、市幹部と意見交換しました。

懇談会には市町連側から25人、市側から14人が出席。加川幸男市町連会長、市長のあいさつの後、市からの情報提供として、佐々木淳一経済部長が「新幹線開業対策」について説明しました。

佐々木部長は、開業に向けた取り組みとして①青森駅、浪岡駅周辺の整備②観光客らを対象に新青森駅発着で、森林博物館、アウガ、棟方志功記念館、三内丸山遺跡などを回る「あおりシャトル de ルートバス」③市民観光ボランティアガイドと青森ゆかりの場所を巡る散策コース④ねぶたの家ワ・ラッセ⑤古川市場の「のっけ井」、寿司クーポン⑥開業記念事業・イベント「あおり正直市」「食と灯火の祭典」一の内容、状況、反響などを紹介しました。

ネットワーク分かりやすく

続いて、意見交換に入り、市町連側から新幹線開業関連で①高齢者に配慮した案内、交通ネットワークを考えてほしい②ねぶた時期、適正な料金での宿泊、駐車場を確保してほしい③町会、市民として協力できることは④開業後の青い森鉄道、空港、他地域との連携は⑤青い森鉄道の新青森駅乗り入れに不可欠な奥羽線の複線化の取り組みは一と要望や質問を出しました。市側は①「あおりシャトルdeバス」（1日乗り放題500円）の運行はじめ、できるだけ分かりやすいネットワークづくりに努める②現青森駅前の観光交流センターを中心に空室状況、キャンプ施設等の案内を行っている。駐車場の確保、分かりやすい誘導・案内

に努める③何より市民の協力がなければできない。きれいな町キャンペーンはじめ、いろいろ協



力をお願いしたい④市町村、関係機関、業界と緊密に連携を続ける。3つの新駅整備で利便性を向上させるなど、地域の足として青い森鉄道を支えるための取り組みを続ける⑤JRへ複線化をお願いしているが、採算面の問題もあり、JR側は便利なダイヤ、スピード化で対応したいとしている一と回答しました。

対応したいとしている一と回答しました。

物語性のある街づくり

また、新幹線関連以外について、市町連側から①古い下水道管の口径を大きくするなどして流雪溝の整備を進めてほしい②公民館・分館の改築、集会所建設の補助金額拡大、利用実態に合わせた助成、管理費用の負担などを考えてほしい③市内のさまざまな史跡に標柱を立て、歴史が感じ取れる街づくりをしてほしい④ハザードマップ（自然災害による被害を予測し、被害範囲を地図にしたもの）に、水・食糧等緊急物資を入手できる場所も掲載できないか一と要望や提案をしました。市側は①流雪溝整備には、水温、土地の傾斜等いくつかの条件が必要で、要望に応えることが難しい②公民館・分館・福祉館など老朽化しているところが多い。今後のあり方を検討する中で、支援策も考えたい③史跡にプレートを立てているが、観光客・市民に分かりやすい、物語性のある街づくりを考えていきたい④食糧等が入手できる場所など記入したハザードマップを作り、対象町会に案内している。今後、ゲリラ豪雨のハザードマップ作成も予定している一と答え、市長が「提案・要望があったことについて、市町村、関係機関、業界とも連携をとり、また市町連にご協力いただきながら、いい方向に前進させたい」と結びました。

除排雪事業
計画説明会

市民とのパートナーシップ強化

コミュニティ除排雪、雪寄せ場確保進む



除排雪計画の説明を受ける出席者

青森市の平成22年度除排雪事業説明会が11月11日（木）、市柳川庁舎で開かれ、市町連から加川幸男会長はじめ33人が出席、除排雪体制、違法駐車対策などを質しました。

除雪車道延長は1,348キロ

はじめに、市の担当者が除排雪実施計画について①22年度の除雪車道延長は、石江地区道路、新青森駅接続道路などが加わり、昨年より約8キロ延びて、約1,348キロになる②市民とのパートナーシップを強化、地域コミュニティ除排雪制度の拡充に努めたほか、住民の要望が多い雪寄せ場の確保を進めた③歩道確保に除雪機を37台貸与、ほかに市教委が通学路確保のため33台貸与する④除排雪作業のレベルアップに除排雪業務評価制度と除排雪業者に対する講習会を継続する⑤青森地方気象台の積雪深が100センチを超え、さらに増加する見込みの場合に豪雪対策本部を設置、150センチを超え、さらに増加する見込みの場合には豪雪災害対策本部を設置し、豪雪時の対応を強化する⑥相談への対応と情報提供に、雪に関する市民相談窓口を設置（平日・電話734-1111、休日734-1338）するほか、30路線について午前7時までの除雪作業完了情報をインターネットで公開する⑦平成21年度時点での雪処理施設の整備状況は、流雪溝約79.3キロ、融雪溝約6.6キロ、歩道・車道融雪約23.1キロになっている」と概要説明しました。

続いて、青森警察署の担当者が、冬期間の体制

について①駐車違反の取り締まりを強化する②交番が発行する広報紙を各家庭に配布し、迷惑駐車をしないよう呼びかける一と説明し、「除排雪作業の障害になっている車や、日常的に駐車違反している車はナンバーなど交番・警察署に連絡してほしい。連携して、駐車違反をなくしていきたい」と協力を求めました。

質疑応答では、出席者から①違法駐車を取り締まり徹底、市道・県道の時間差除雪による道路の段差解消など、毎年要望をしているが、一向に解決されていない。関係機関と連絡を密にし、指摘された問題をきちんと解決してほしい②交差点の雪盛りで、ドライバー、歩行者ともに危険な思い



除排雪について要望・意見を述べる町会長



をしている。雪盛りしないようにしてほしい③除雪だけでなく排雪の回数も増やしてほしい④車道へ出し雪をしないように、市の指導を強化してほしい—など要望や意見が出されました。

車道への出し雪禁止を啓発

これらに対して市・警察署は①巡回して違法駐車にはワイパーに警告書をはさむなどしているが、限られた人員で対応しきれていない実情にある。町会から連絡をいただければ、深夜でも対応できる体制をとっている。市道・県道交差点の問題については県と協議、連絡を密にする②パトロールを強化し、交差点の雪盛りは速やかになくするようにする③県道の排雪についても県と協議する④出し雪禁止の啓発を進める一と現状、対応を説明しました。

新幹線効果に期待

地域協議会町会長研修会

4地域協議会は町会長研修会を別表のとおり開きました。

南部地域協議会（須藤喜代行会長）は10月22日（金）、ホテルクラウンパレス青森で開き、青森地域社会研究所の竹内慎司地域振興部長を講師に「東北新幹線全線開業と青森市への経済効果」のテー



南部地域協議会

マで47人が研修しました。

竹内氏は盛岡、秋田、山形、八戸

など新幹線開業先進地の開業効果の検証結果を報告。八戸の観光客数や企業誘致数などのデータを示し、観光関連と企業誘致で新幹線効果が見られたと紹介しました。また、新幹線の経済効果が期待される分野として①観光振興②企業誘致③まちづくり—を挙げ、熊本、富山、金沢、函館の取組状況を紹介し、青森市や県の新幹線開業へ

地域協議会名	開催日	会場	研修テーマ等
南部	10・22 (金)	ホテルクラウンパレス青森	東北新幹線全線開通と青森市への経済効果等
西部	10・25 (月)	沖館市民センター	壮年期の健康づくり
東部	11・08 (月)	浪岡駅等	浪岡駅とその周辺、リンゴ倉庫視察
北部	11・09 (火)	新青森駅	新青森駅視察等

の取り組みと課題に言及、開業直後の社会、経済、文化面への影響と対応策を述べました。

出席者からは①新青森駅の駐車場30分無料は短くないか②観光以外の産業、雇用への効果は③課題は、冬の魅力発信、通年型観光とされているが、具体的にはどんなことが考えられるか—などの質問が出されました。

総務部会町会役員研修会

児童虐待の防止対策探る

総務部会は11月22日（月）県福祉プラザで町会役員研修会を開き、出席した120人が、市子どもしあわせ課の高野光広主幹を講師に「青森市の児童虐待と地域の対応」のテーマで研修、虐待防止対策などを探りました。

高野主幹は、最近国内、県内で発生した児童虐待の事例を紹介した後、児童虐待の内容を①身体的虐待②性的虐待③ネグレクト（育児放棄）④心理的虐待—に分けて、その特徴を説明、①平成21年に児童相談所に相談があった件数は全国で44,210件、県内は475件で増加の一途をたどっている②全国、県内ともに身体的虐待、ネグレクトで全体の8割を超える③虐待するのは実母が約60%、実父が25%を占める④虐待を受けているのは小学生未満が8割以上⑤21年に

市・中央児童相談所に相談があった件数は133件—と数値を示し発生状況、虐待から援助・支援までの流れ、市の対応などを紹介しました。そして、児童虐待早期発見のポイントとして、子どもについて①不自然な傷・あざがある②衣服が不潔③発達の遅れが見られる④夜遅くまで遊んでいる⑤親の顔色をうかがう—などを挙げ、家族については①清潔への配慮がない②扱い方が不自然③子どもの発達にそぐわないしつけをしている④子どもの健康状態に注意を払わない—などを挙げて、「町会の皆さんには、虐待を受けたと思われる子どもを見つけたときにはぜひ、市、児童相談所（全国共通ダイヤル0570-064-000深夜も対応）へ連絡・相談をお願いしたい」と協力を呼びかけました。



見守りなど協力を呼ぶ
かける高野主幹

続いて、孤立し、虐待してしまった母親の体験、児童福祉司、地域看護師などの取り組みを紹介したビデオ「子どもの声に耳をすませて」を見ながら、地域が児童虐待にどう関わっていくべきか考えました。

出席者からは①実態は市が扱った件数の3-4倍あるのでないか②命の尊さ、子育てに悩んだ時の相談・連絡方法などもっと啓発してほしい③深夜に児童虐待が起きた時の対応は④地域とのつながりが希薄な家族が多い、民生委員・児童委員の引き受け手が少ないなど、地域の見守りだけでは早期発見が厳しい現状にある。現状を変える手立てを考えてほしい—などの質問、意見が出されました。

第33回
町内女性の
集い

市の計画、財政学ぶ 最小経費で最大効果を

市町連女性部会は11月10日(水)、県民福祉プラザで「第33回町内女性の集い」を開き、鹿内博市長が「東北新幹線新青森駅開業に向けて」と題し講話、市の多田弘仁財政課長が「青森市の財政」のテーマで講演し、参加した160人が市の計画、歳入歳出状況などを学びました。

鹿内市長=写真①=はまず、「人が動けば、金が動き、それが雇用につながり、市財政にプラスになり、住民サービスも向上する」と

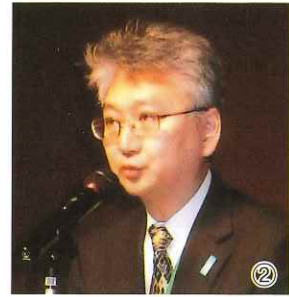


新青森駅開業の意義を説いた後、新幹線とつなぐ二次交通につ

いてのあらまし、新青森駅、整備した青森駅周辺施設、新青森駅から県立美術館、県立郷土館、八甲田丸などを回る「あおもりシャトルdeルートバス」について説明。観光振興に「青森市が持っている

県内最大級の宿泊収容能力、豊富な自然・食、青森独特の芸術・文化、ねぶたなどのまつり、道路・鉄道・航路など交通の拠点性、これら“青森力”を高めて、滞在型あおもり観光を目指している」と話し、その具体的な取り組みとして、市民観光ボランティアガイドと青森ゆかりのスポットを巡る「あおもり街てく」、ねぶたの家ワ・ラッセ、のつけ井などの事業内容を紹介しました。さらに、開業後1年間のイベント計画も紹介して「開業はゴールでなく、新たなスタート。津軽、下北、函館の市民、生産者、業者とも一緒になり、青森市を全国に発信し、新幹線開業を生かしていきたい」とまちづくりへの思いを語りました。また、参加者からの「夢が1年で消えないように、人材育成が大事。安い住宅の提供など若い人が子育てしやすい環境づくりをしてほしい」という要望に「若い人たちが、元気が湧いてくる、夢が持てるまちづくりをしていく」と話しました。

多田課長=写真②=は予算の意義、原則、内容、青森市の歳入と歳出、国と普通地方公共団体との関係、地方財政の役割と現状などを解説した後、青森市の財政について「自主財源である市税収入だけでは、行政運営に必要な経費をまかなえず、地方交付税・国



庫支出金等に頼らなければならない状況である」と話し、具体的

に21年度の決算状況を例に「歳入1,284億円余りのうち、約3分の2は、国からの金と借金。歳出約1,255億円のうち、削減が困難な義務的経費(人件費11.8%、扶助費24.1%、公債費12.6%)が半分近くを占める。市債の残高は一般会計費、財源対策費合わせて約1,787億円になっている」と紹介して、「人口が減っている状況では、基本的に人口単位で計算される地方交付税が減っていく。最小の経費で最大の効果を上げるようにしなければならない」と厳しい状況にあることを説明しました。

『おいしい青森の水』テーマに 理事・部会員研修会

町会連合会は12月7日(火)市文化会館で、市企業局職員3人を講師に「おいしい青森の水」のテーマで理事・部会員研修会=写真=を開き、市の水道と水道事業について理解を深めました。

明治42年(1909年)横内浄水場から通水を開始した市の水道は、昭和59年(1984年)厚生省(当



時)の「おいしい水研究会」が主催した利き水会で日本一おいしい水と評価されました。

各職員は、こうした市の水道の歩みをはじめ、各町会に給水する配水所など水道施設の位置、市の水道事業計画、水源保護活動、総

延長1,307キロに及ぶ配水管の保守管理、災害対策、水道料金(20立方メートル当たり、青森市2,604円、県平均4,230円、全国平均3,090円)など、市の水道全般について説明しました。

出席者からは①水源地付近に粗大ゴミが不法投棄され、財産区がたいへんな金をかけて撤去している。不法投棄防止に努めてほしい②水質のチェック項目は全国同一か③鉛配管の現状は一など要望、質問がありました。

頑張っています

一斉に側溝の泥上げ

ロイヤル鳴滝町会（白戸正幸会長）は、10月上旬から1カ月間、班ごとに日時を指定して一斉に側溝の泥上げを実施、悪臭がひどかった側溝がきれいに生まれ変わりました。

これまでは作業を各世帯が個々に行っていたため、効率が悪く、結果にむらもあって、汚泥が溜まり不衛生な状態になっていました。そこで、効率的に作業を行うため一斉泥上げを町会の総会で決議。仕事で都合がつかない世帯、高齢者世帯、体調不良・病気で参加できない世帯など問題もありましたが、まずは試行ということで、町内の14班すべてに10月2日—11月6日の土・日、作業日時を指定して、実施要項を

ロイヤル鳴滝町会



隣近所協力して一斉泥上げ

住民に配布。当日は、町会が側溝のふた上げ機、土のう袋を用意、住民にスコップなどを持ってきてもらい、一斉に作業を開始しました。

1カ月間に延べ250人、全世帯の70パーセントが参加し、各班の平均作業時間は1時間50分でした。作業を通して隣近所の協力態勢が固まるなどの収穫もありました。さらに検討を加え、恒例行事にしたいと考えています。

おめでとうございます

青森市表彰 7町会長が受賞

22年度青森市表彰の表彰式が10月18日（月）ホテル青森で行われ、町会長として15年以上にわたり、市政に協力、地方自治の振興発展に貢献した次の7氏が表彰されました。（敬称略）

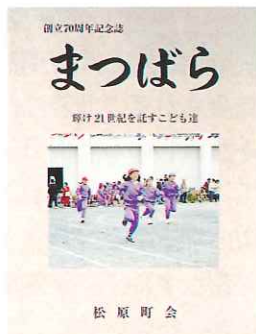
- 小笠原正勝（泉野町会長）
- 川村 悦美（戸山が丘町会長）
- 佐藤 利正（京王台団地町会長）
- 小田 友男（南八ツ橋町会長）
- 伊丸岡英幸（新油町町会長）
- 笹井 康三（松原町会長）
- 工藤 浩（浦町第一町会長）

記念誌『まつばら』発行

松原町会が創立70周年

松原町会（笹井康三町会長）は、町会創立70周年を記念、地域の歴史・文化を次代に引き継ぎとうと昨年10月、記念誌「まつばら」（A4判、36ページ）＝写真＝を発行しました。

東を堤川に接し、北に遊歩道が沿う同町会は、昭和15年（1940年）に160



世帯で創立、現在は約1,050世帯を数える市内有数の町会。棟方志功館はじめ文教施設、病院・医院が多く、またスーパーマーケットがあり、大通りは融流雪溝が整備されているなど生活環境が整っています。毎年子供ねぶたを運行、盆踊り大会、町内文化祭を開くなど町内活動も盛んです。

記念誌は、町会の沿革、「高齢化・少子化時代に対する町内活動」をテーマに行った座談会、松原市民館や子供ねぶたなど関係者の手記、活動のスナップ写真、各活動に対する住民へのアンケート結果などを掲載しています。

哀 悼 録

南佃町会長 田村 正信 殿
（平成22年10月16日ご逝去）
慎んで哀悼の意を表します。

◎ 編 集 後 記 ◎

「つながり」や「縁」が希薄になり、「無縁社会」とも言われるいま、町会は地縁組織として、またセーフティ・ネットとして、ますます役割が大きくなっています。「町連だより」は、多くの町会のコミュニティ活動を紹介し、町会活動の活性化を支援していきたいと考えています。各町会からの情報提供をお願いします。（千）